

本書の目的

この本は、大学で学び始める高校生や大学生が、大学での基本的な学び方を身につけ、自分の将来について探究するための礎^{いしずえ}をしっかりと作ることを目的としています。

高校までの勉強は、時間割が決まっていて、知識を憶^{おぼ}えることが中心でした。大学での学習では「……を学びたい」「……ができるようになりたい」と自分で考え、主体的に学習すること（アクティブラーニング）や探究学習が求められます。主体的に学ぶためには、「自分はこれから、何をしたいのか」「将来どうありたいのか」を考え、大学生活やさまざまな授業を、自分に意味があるように関連づけ、自分でデザインすることが必要です。

すでに、こんな資格を取りたい、卒業後はこんな職業につきたいと目標を決めている人でも、自分が専攻する分野の勉強だけでなく、多様な体験を通して視野を広げ、自分がめざそうとしていることは何かを深く考え抜く経験や、テーマを見つけて探究する学習、根拠を示して論理的に考えを書く鍛錬も大切です。

一方で、自分がやりたいと思っていたことと現実^{現実}にズレが生じ、挫折することもあるかもしれません。自分が本当にやりたいことを見つけていくことは簡単ではありませんが、回り道は、人を育て、人生を豊かにしてくれます。

まずは「自分を知る、学び方を知る」ことから始めましょう。

学び方がわかると、論理的に考えることができるだけでなく、発想が豊かになり、多様な視点から物事を深くとらえられるようになります。

学びの先には何があるのか、将来どんな自分でありたいのか、何をしたいか、先を見通す力をつけ、「大学での学びの礎^{いしずえ}」を築いていきましょう。

大学時代は人生における貴重な学びの時間です。出合いを大切に充実した時を過ごし、自信を持って未来を描き、困難な問題にも対応できる力強さとしなやかさを身につけ、社会へ、世界へと羽ばたいていってほしいと願っています。

著 者

目 次

本書の目的	i
効果的に学びたい方へ	iv
1 学問の世界へようこそ	1
1 学問の扉	2
2 大学を知る、自分を知る、仲間を知る	6
2 論理的な考え方を学ぶ	9
1 論理的に考えるとは	10
2 考えるプロセスを支援する KJ 法	11
3 現実を観察して、問いを立てる	13
4 情報を集める	16
5 情報を分類し、図解する	17
6 論理を組み立て、文章化する	21
7 論理的にプレゼンテーションする	24
3 レポートの書き方の基本を学ぶ	25
1 自分で考えて書く力をつける	26
2 考えて書く5つのステップ	32
ステップ0 レポートのイメージをつかむ	34
ステップ1 論点を定める	35
ステップ2 調べる	40
ステップ3 組み立てる	50
ステップ4 執筆する	54
ステップ5 点検、推敲する	57
見本レポート 論証型レポートの例	60
自己点検評価シート（ループリック）	64

4	学びをプランニングする	67
	ステップ0 知る	
	アカデミックプランニングとは	68
	ステップ1 調べ、考える	
	学部の理念や特徴を調べ、魅力を考える	70
	ステップ2 理解する	
	学部のカリキュラムとゴールを理解する	72
	ステップ3 まとめる	
	KJ法で情報を分類し、ポスターを作成する	75
	ステップ4 発表する	
	ポスター発表会をおこなう	79
	ステップ5 書く	
	アカデミックプランニング・エッセイを書く	80
5	キャリアをデザインする	83
	1 いきなりキャリアデザインはできない	85
	2 挫折や苦悩を乗り越えて——大学生の就職活動から考える	89
	3 自分が選んだ道を歩む旅へ	
	——生涯発達の視点でデザインする	96
6	学びを振り返る	103
	学びの振り返りを書く	104
	参考となる文献の紹介	106
	あとがき	110
	ワークシート（Work 1～6）	115
	出欠&ワークシートチェック表（全15回）	145

効果的に学びたい方へ

●いますぐに必要なことからやりたい

- ・興味があること、いま必要だと思うことを選択して学ぶことができます。

●論理的に考えられるようになりたい

- ・すべての章に論理的に考えるトレーニングの要素が詰まっています。
- ・情報の整理と情報を組み立てる手法として KJ 法を学びます。：第 2、4 章
- ・KJ 法は、論理的なレポートを書くため、資料の整理にも役立ちます。

●レポートの書き方の基本を身につけたい：第 3 章

- ・初心者でも基本フォーマット（pp. 48-49）を用いてスラスラ書くことができます。
- ・見本レポート（pp. 60-63）と自己点検評価シート（ループリック pp. 64-65）を見ると、具体的にどう書けばよいかが一目でわかります。

●見通しを持って、履修計画ができるようになりたい：第 4 章

- ・自分が所属している学部（学群）の魅力を理解し、自分でアカデミックプランを組み立てることができます。

●大学生生活の過ごし方や将来が不安。どう考えればいいのか知りたい：第 5 章

- ・就活の事例から何を大切にすればいいか、論理的に考えることができます。

●アクティブラーニング（AL）で学びを深めたい

- ・AL の 3 要素「書く・話す・発表する」活動が、すべての学習に盛り込まれ、楽しく学びあい、学びを深めることができます。

●巻末のワークシートを使って、学習効果を上げることができます。

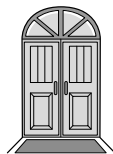
●本書を用いた指導法を慶應義塾大学出版会ホームページにアップしました。使いやすく、学びを深める指導法を提案していきます。

URL:www.keio-up.co.jp/hp/isbn/9784766426519

学問の世界へようこそ

- 1 学問の扉.....2
 - Work 1 ①.....5
- 2 大学を知る、自分を知る、仲間を知る.....6
 - Work 1 ②.....7

1 学問の扉



● 学問の世界へようこそ！

大学生になったみなさんの前には、学問の世界が広がっています。

学問の世界とは、先人たちが築き上げてきた智恵が凝縮された、新たな学びの世界です。大学ではどんなことが学べるのか。自分は何に関心があるのか。様々な学びがあることを知る。そこから、大学での学習が始まります。学問の世界には、経験したことのない新しい感動があります。

みなさんは、学問の世界の入り口に立ったところです。

さあ、力強く、学問の扉を開いてください。

● 知の創造の体験、知の冒険を楽しもう

まずは、先人たちの知識や叡智^{えいち}に学びます。そして「新しい知」を自分で創っていくのです。そこには、発見があり、驚きがあり、感動があります。扉の向こうには、「知の冒険」の世界が広がっています。少し難しいこともあるけれど、だからこそおもしろいのです。深く考えることの楽しさ、「知の冒険」を大学で思う存分楽しんでください。

● 学問の扉は“問い”

みなさんは不思議に思ったり、問題だと思ったりしたことはありませんか。様々な問いを思い浮かべてみてください。

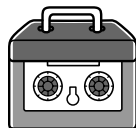
「なぜ、人は考えることができるのか？」

「チョウはなぜ飛ぶのか？」

学問は「問うて学ぶもの」。扉の鍵は「問い」。問いによって開きます。問いがなければ学問へと発展しません。学問の世界では「知識は教わるもの」ではなく「知識は自分で創っていくもの」なのです。

そこには発見や驚きがあり、新しい知の創造を体験することができます。学問との出会いは、きっと大きな感動をもたらしてくれるでしょう。

● なぜ、人は考えることができるのか？



私は小学生の頃から「なぜ、人は考えることができるのだろう？」「頭の中はどうなっているのだろう？」と、とても不思議に思っていました。小学3年生の国語の授業で、その問いを「あたまの金庫」という詩にしました。「人間は考えることができる。考えたことを貯めておくこともできる。貯めていたものを取り出して使うこともできる。だから、人間のあたまは金庫のようだ」と書きました。先生は「あたまを金庫だと思ったの。すごいね」と言って、学校の文集に載せてくださいました。

大学生になり、その発想は記憶貯蔵庫モデルの最も基本的な形であるノーマンの研究⁽¹⁾と似ていることを心理学の授業で知りました。その後発達心理学のゼミに入り、卒業論文は「思考の発達過程に関する研究——Piaget, Bruner, Kendlerの理論に基づく実験的検討」でした。

卒論のテーマがきっちりと決定するまでには時間がかかりました。「思考の発達」をテーマにしようと思って、発達心理学のゼミに入ったのですが、実際、どう研究したらいいのか、まるで考えていなかったからです。毎週、ゼミで進捗状況を報告することになっていましたが、先生は「まだ考えが足りないね」とか「1週間でそれしか調べられなかったの？」とか言うだけで、具体的な指示はまったくありませんでした。

そこで当時の私は、体系的にまとめられている概論書を読むことから始めました。試行錯誤して時間はかかりましたが、**理論を体系的に勉強しなければ、研究計画を立て、論文を書くことはできなかったでしょう。**

また、素朴な疑問から出発して、仮説を立て、実験を実施し、データを分析して論文にまとめるプロセスは、自分の**思考を鍛える**という大きな意味がありました。こうして私は今でも「思考」というテーマを大切にしています。研究する意義があると思っているからです。

(1) Waugh, N. C. & Norman, D. A. (1965) Primary Memory. *Psychological Review*, 72, 89-104.

● チョウはなぜ飛ぶのか？

動物行動学者の日高敏隆さんは、幼い頃から昆虫が好きでした。

日高さんのエッセイから、問いをあたためるとはどういうことなのかを考えてみましょう。

日高さんは『世界を、こんなふうに見てごらん』⁽²⁾で「「なぜ」をあたためつけよう」と、問いを持つことの重要性を説いています。



「僕はチョウをいろいろ研究したが、はじめから学問の対象として見ていたのではないと思う。チョウには蝶ちょうどう道があつて決まったところを飛ぶ。たとえばクロアゲハは、もっと低いところを飛んでいてくれたら捕りやすいのに、どうして高い木の梢こずえあたりしか飛ばないのか。子どものときからずっと疑問だった。じゃあ、いったいどういうところを飛ぶのか。」

日高さんは、動物をあたたかな目で見te、「チョウはなぜ、そういうふう to 飛ぶのか」と問い続けました。それが動物行動学者としての原点でした。

「もしかしたら彼らはミカン科の木の葉っぱに卵を産んで（そこで）成虫になるから、花畑よりも木の梢のほうを飛んでいる雌が多いのではないか。雄はそこで雌にあうのではないか。というぐあいに説明がついてくる。仮説を立てて、実際に調べてみる。具体的なことがわかってくると、だんだん一般にあてはまる理屈が見えてくる。」

さらに、日高さんは次のように語りかけています。

「科学を志す人には、なぜということしかない。おおいに「なぜ」に取り組めばいい。自分の「なぜ」をあたため続ければいいと思う。」

(2) 日高敏隆 (2013) 『世界を、こんなふうに見てごらん』 集英社文庫。

「こうなのではないかな」と思って調べていくと、具体的なことがわかってきます。それを整理していくと、思考の道筋が見えてきて、わくわくし、学ぶことが楽しいと感ずるようになります。

● 学問の思考法を学び、将来につなげて考える力をつける

本書では、「問いを立てる、調べる、集めた情報を分析する、議論する、論理を組み立てる、書く、発表する」という一連の学問の思考法（ディシプリン：discipline）を学んでいきましょう。ディシプリンには、「しつけ・訓練」という意味のほかに、**学問分野、思考様式**という意味があります。学生時代に学問の思考様式をきっちり身につけた人は、正解のない混沌とした問題にも立ち向かっていくことができます。

でも、最初から肩に力を入れなくても大丈夫！ まず、自分はいま何に関心があるかを考えてみることから始めましょう。**自分が興味を感じていることや素朴な疑問を大切に育てていく**ことで、自分は何をおもしろいと思うのか、何をしているときが充実していると感じるのかわかってきます。それがすぐにあるいは直接的に将来の仕事に結びつくとは限りませんが、自分がこれからやりたいと思うことが少しずつ見えるようになっていきます。

【Work 1】①問いを立てて考える (➡ p.115)

不思議だな、問題だなと思うことを「なぜ、……なのか」という問いの形式で考えてみましょう。さらに、その理由についても「なぜならば、……」と書いてください。社会的問題や学問的問いであれば、問題の背景や根拠、あるいは不思議だなと素朴に感じる理由について考えてみましょう。

難しい問題ではなく、自分のことや日常的関心でもよいのです。たとえば、ダンスに夢中になっていれば、「なぜダンスが好きか、どこに魅力を感じているのか、これからどう続けていきたいのか」など、自分の今後につなげ、掘り下げて考え、その理由を書いてみましょう。

2 大学を知る、自分を知る、仲間を知る

大学には、高校までと違い、クラスはありません。1年次の英語の授業などで顔見知りになることもあります。履修した科目によっては、周りはまったく知らない人ばかりということもあります。

また、大学の授業には、大人数の講義中心の授業もあれば、少人数のゼミもあります。講義を聴くだけでなく、ディスカッションやグループワークなど仲間と協同で課題を行う演習型の授業もあります（表1）。

表1 大学の授業形式

形式	人数	内容
講義	多い	1・2年次に履修する全学共通科目など
演習	中程度	講義＋ワークのブレンド型。実習、実験、調査も含む
ゼミ	少ない	3・4年次の専攻演習。討論や発表、論文執筆

時間割も自分で決めます。3W1Hで自分の時間割を大学4年間のスパンで俯瞰的にデザインしてみましょう（表2）。

表2 時間割作成の留意点

Why	なぜ、学習区分と卒業要件が決まっているのか、理解しよう
	必修科目、選択必修科目、教養科目、専門科目、卒業単位
What	何に関心があり、何を学ぶのか、何を目標とするのか、認識しよう
	〇〇学に興味がある、資格を取る、TOEICで〇点取る、英語が話せる
When	いつ履修するか、4年間の時間軸で就活も視野に入れ計画的に考えよう
	履習年次、先修条件、就職活動期間、短期留学時期、教職実習期間
How	下記のツールを使い、自分の時間割の全体像を体系的に把握しよう
	履修ガイド、授業時間割表、講義案内、シラバス、大学ホームページ 教務課窓口、掲示板

大学生活を充実したものとするためには、履修登録、単位修得や資格取得、課題や試験対策など、さまざまな情報を交換し合う仲間づくりが大切です。そのためには、まずは自分を知り、自分を相手に知ってもらう伝える力、話す力も必要です。また、相手を知るためには、相手を理解する力、話に耳を傾ける、聞く力も求められます。相手に信頼してもらうことによって、互いの絆は深まります。コミュニケーションする力は、大学の中だけでなく、アルバイトや就職活動、さらには社会で生きていくための根幹となります。

ここでは、自己紹介と他己紹介の体験を通し、自己理解や他者理解を深めます。自分を対象化して語ることや他者を知ることで、自分も知らない自分や世界を発見することができるでしょう。

【Work 1】②自己紹介・他己紹介(➡ p.115)

〈自己紹介〉 知らない者同士で2人1組になり、自己紹介し合います。積極的に自分のことを話しましょう。初めて聞く相手にもわかるように自己紹介しましょう。聞き手としては、質問の仕方も工夫し、次に行う他己紹介のために、空欄にメモを取っておきましょう。

①名前・所属学部(学群)・学年、②高校生活：出身地、得意な科目、部活・サークル、③大学生活：一人暮らし or 実家、おもしろい授業、関心のある専門分野、部活・サークル、④性格：自分から見た私、家族や友達から見た私、バイトでの私、⑤将来の夢、マイブーム(夢中になっていること)、特技など。

〈他己紹介〉 自己紹介した相手のことをほかの人に紹介します。自己紹介のペアが3～5組集まって、6～10人のグループを作り、他己紹介を行います。グループのメンバーに対して、自己紹介のペア同士で互いに紹介し合います。メモした記録を読み上げるだけでなく、自己紹介を聞いて感じた印象や感想を一言入れるようにしましょう。たとえば、「〇〇さんの〇〇は、……だと感じました。……のところスゴイと思いました。……は素晴らしい経験だと思いました」など、グループのメンバーの顔を見ながら紹介しましょう。アイコンタクトが大切です。

〈振り返り〉 自己紹介と他己紹介が終わったら、振り返りをしましょう。気づいたこと・考えたこと・感じたこと・工夫したこと・うまくいったこと・難しかったこと・ほかの人の発表の優れていると思ったことなどをワークシートに記入しましょう。

論理的な考え方を学ぶ

- 1 論理的に考えるとは.....10
- 2 考えるプロセスを支援する KJ 法.....11
- 3 現実を観察して、問いを立てる.....13
Work 2.1.....15
- 4 情報を集める.....16
Work 2.2.....16
- 5 情報を分類し、図解する.....17
Work 2.3.....19
Work 2.4.....22
- 6 論理を組み立て、文章化する.....21
Work 2.5.....23
- 7 論理的にプレゼンテーションする.....24

1 論理的に考えるとは

論理的に考えるにはどうしたらよいでしょうか。みなさんにはこんな経験はありませんか。

レポートを書くために、資料を集めて読んでみた。でも、このあとどう考えたらいいか、わからない



インタビューに多くの人が答えてくれた。でも、回答を眺めていても何も考えが浮かばない



漠然と読んだり、眺めているだけでは、どう考えたらいいかはわからないでしょう。まずは集めた情報をもとに、思い浮かんだことを、手を動かし紙に書いてみましょう

大学で学んでいくためには、論理的に考える力を身につけることが必要です。実際に手や頭を動かして、集めた情報から何がわかるのかを考えてみましょう。考えるプロセスを可視化し、意識できるようになれば、決して難しくありません。

それでは、次の2つの場面での「考える」状態は同じかどうか、検討してみましょう。

〈休み時間〉

先生「P子さん、窓の外を見て何考えてたの？」

P子「もうすっかり桜は散ったなあと、ほんやりと^{うつつい}考えていました」

〈数学の時間〉

先生「三角形は2辺の長さがわかっていれば、残りの1辺の長さを求めることができます。^どんな2本の線からも三角形は作れますか？」

P子「いま、線を引いて考えています。あっ、わかりました。2辺の和が対する1辺の長さより長いときに三角形ができます」

休み時間の「考える」は、桜を見て、季節の移^{うつろい}について知っている知識を思い浮かべている状態です。それに対し、数学の時間の「考える」は、ばらばらな状態の知識に関係性を見出すため、補助線を引きながら、推理を行い、論理的に考えを組み立てている状態です。

この章では、後者の「考える」、つまり、ばらばらな知識や情報に、関連性や意味のあるまとまりを見出すための論理的な考え方を学びます。図解して思考を可視化し、何がわかるかを考える方法の1つとして、KJ法を学んでいきましょう。

2 考えるプロセスを支援する KJ 法

KJ法は、混沌とした情報を論理的に筋道立てて整理し、そこから何が^{かわ}わかったのかを^か発想する方法です。開発者の川喜田^{かわき}二郎さんの名前の^{かしら}頭文字から命名されました。この章では、川喜田さんの著書⁽³⁾⁽⁴⁾にあるKJ法を使い、どうすれば多様な情報をうまくまとめられるか、方法の具体例を示しながら解説します。

川喜田さんの専門は、野外科学（フィールド・サイエンス）です。野外科学が扱うのはありのままの自然であり、多種多様な自然の要素が複雑

(3) 川喜田二郎（1967）『発想法——創造性開発のために』中公新書。

(4) 同（1970）『続・発想法——KJ法の展開と応用』中公新書。

にからみ合っています。KJ 法は、こうした混沌とした現実の問題を解決するため、何らかの秩序を見出し、体系づける科学的な方法として開発されました。

まず、ありのままの自然（社会や人間も含む）を観察し、問いを立てます。問いは、学問の世界のことだけでなく、社会問題から家庭の問題まで、あらゆる問題解決過程を対象としています。たとえば、「日本の将来を見据えて原発再稼働をどうとらえていくか」とか、「人工知能の時代に何を学ぶべきなのか」とか、「アルバイトは何がいいか」とか、大問題でも日常の問題でもよいのです。

次に、情報を集め、記録した紙切れ（貼ってはがせる糊^{のり}のついた付箋^{ふせん}）を用い、それらを分類し、図解します。手を動かして「この付箋はこっちのグループに入る」と移動させ、ああでもない、こうでもない、と、図を描きながら考えるプロセスを可視化します。そうしていくと「これはこういうことかな」という意味のあるまとまりを発見することができます。図解することによって、「わかった!」と、いままで気づけなかった新しい意味を発想することができるのです。これが KJ 法です。

さらに、図解することで、情報の関連性が理解できるようになり、論理を組み立てるプロセスがわかるようになります。図 1（p.20）を見ると KJ 法のイメージがつかめます。

● ディスカッションやレポート・論文作成にも役立つ！

さらに、KJ 法は、正解のない問題を何人かで考えるときや、レポート課題に 1 人で取り組むときにも、情報を整理し、筋道立てて論理的に考えることに役立ちます。たとえば、「インターネットが普及した現代では従来の学校や大学での学び方でよいのか」というような課題です。

KJ 法は、単に情報を整理し、考えるプロセスを支援するだけでなく、混沌とした情報を図解という作業を通して可視化し、手と頭を動かして論理を組み立て、新しい考え（結論）を導き出す発想法でもあります。

3 現実を観察して、問いを立てる

それでは具体的に、ありのままの大学生活を観察し、問いを立ててみましょう。問いを立てたあと、調査を行い、集めた回答を KJ 法で分析するプロセスを想像しながら考えてみましょう。

ここでは、「自分の大学を知る」という共通テーマをもとに問いを立てます。自分の大学を調べるワークを通して学ぶので、自校意識も芽生えます。

まず、テレビのニュースでよく見る街頭インタビューのような形式で回答を求めることを想定して、オリジナルな問いを考えてみましょう。1つのグループを5～8人とします。インタビューの対象者は、キャンパス内にいる学生や同じ授業を履習している学生とします。

「自分の大学を知る」ための問い（例）

- ・いま、最も充実していること、楽しいと感じることは何ですか？
 - ・いまの目標は何ですか？ 将来の夢は？
 - ・大学の勉強は将来役立つと思いますか？ どんなことが？ それはなぜ？
 - ・アルバイトの経験は将来役立つと思いますか？ どんなことが？ それはなぜ？
 - ・リーダーシップがある人とは？ 具体例と理由を教えてください
 - ・尊敬する人はどんな人？ それはなぜ？
 - ・後輩に私たちの大学を勧めるとしたら、おすすめのポイントは？
 - ・授業の合間の空き時間をどこでどう活用していますか？
 - ・10年後のあなたは何をしていますか？ 想像して教えてください
-

興味深い魅力的な回答が引き出せそうな問いが、何か思い浮かびましたか。回答者の立場やその後の分析を考慮すると、次のような問いは考

え直す必要があります。

適切でない具体例	考え直す必要がある理由
短期留学は英語力上達にどれくらい効果がある？	簡単に回答できず、分析も難しい
〇〇大学は第一志望ですか？ 第一志望の大学は？	個人的なことで答えたくない
学食で好きなメニューは？	分析結果から興味深い考察が期待できない
ディズニーランドで行きたいアトラクションは？	共通テーマの大学生活と関連性がない

●ブレインストーミングして、問いを考える

まずは、多種多様で豊かな意見を出し合うために、ブレインストーミング⁽⁵⁾を行ってみましょう。活発に意見交換することで斬新なアイデアの発想が期待できます。

ブレインストーミングの4つの原則

- ① **非難しない**：他人の発言を非難しない。「変!」などと言わない
- ② **どんどん話す**：たくさんのアイデアを出す。まずは質より量
- ③ **自由に発言する**：「こんなことを言ったら笑われるんじゃないか」などと思わず、他人の評価は気にしない。思いついたことを自由に発言する
- ④ **意見を結合して発展させる**：他人の意見を聞いて、連想を働かせ、自分のアイデアを加えて、新しい意見として発展させる

つまり、多くの意見を出し合うためには、他者の意見も自分の意見も尊重し、非難しないことがポイントです。自由に意見を出し合ったあと

(5) 前掲書。

で、それらの意見が問いとして適切かどうかを客観的に検討すればよいのです。

● オリジナルな問いを考える：「自分の大学を知ろう」

「自分たちの大学について知ろう」というテーマのもとに、オリジナルな問いを考えてみましょう。問いが決まったら、インタビューし、データを KJ 法で分類して何がわかったか、ポスターにまとめ、発表しましょう。このワークには、次の4つのねらいがあります。

4つのねらい

- ① **主体性**：自ら、問いを考える。どんな質問だと、興味深い回答が引き出せるか、独自の問いを考えよう
- ② **創造性**：データを分類し、図解する。図解したことから何がわかるのか、創造性をはたらかせ、考える力をつけよう
- ③ **論理性**：論理的に考え、表現する。思考の道筋がわかるポスターを作成し、何がわかったかを、論理的にプレゼンしよう
- ④ **協調性**：グループでの協力が大切。メンバーが協力し合い、主体的に役割を遂行しよう。人任せで協力的でないフリーライダーは厳禁です

【Work 2.1】オリジナルな問いを考える (➡ p.117)

- (1) ひとりひとりが自分のワークシートにオリジナルな問いを3つ書き出します。
- (2) グループで問いを発表し、「なぜ、その問いを考えたのか」など互いの意見を聞き、「自分の大学を知る」をテーマとして、どの問いが魅力的な回答を引き出せそうかを話し合います。最終的に3つに絞り、実施したい順番に書き、優先順位をつけます。
- (3) グループの代表者が板書して、適切な問いか、先生やほかのグループに点検してもらいます。グループ間で重複したものは調整します。決定した問いに○印をつけます。

4 情報を集める

問いが決まったら、さっそくインタビュー⁽⁶⁾を行い、情報を集めましょう。2～3人が1組になり、まず次のように、依頼者にていねいに説明して了承を得ます。ただし、無理に頼み込むのは禁物です。

【Work 2.2】インタビューを行い、情報を集める (☉ p.117)

【必要な文具】 回答用の付箋 (75 × 75mm、50 枚くらい)、回答用細マジック 3 本、A 4 用紙 3 枚 (理由を聞き取り記録するため)

(1) 質問内容を書いた紙を見せて依頼します。サンプルとして下の例のように、回答を記入した付箋を見せるとわかりやすいでしょう。

(2) 了承が得られたら、回答を付箋に書いてもらいます。

(3) 回答の理由を口頭で聞き、記録係を決めておき、メモ用紙に書いておきましょう。回答を分類するときに使います。たとえば図1 (p.20)の例を見ると、「アカベラ」という回答だけでは、なぜ大学生活が充実しているかがわからず、詳細な分類ができません。理由を必ず聞き、記録してもらいましょう。

(4) 最後に「ご協力ありがとうございました」とひとことお礼を言しましょう。

「 」という授業で、「自分たちの大学を知る」ことを目的として、インタビューを実施しています。回答は授業以外の目的には使いません。よろしければ、次の質問に答えていただけますか。

「尊敬する人はいますか？ 理由は？」

下記のように付箋に回答理由、学部、学年を書いてください。

剣道部の先輩
辛抱強い、優しい
経済 2 年

孫 正義
意思決定力
理工 3 年

(6) ここでのインタビューとは、仮説を検証するための構造的なインタビューとか、1人の対象者にじっくり時間をかけてインタビューするというものではありません。その場で、すぐに短く気軽に答えてもらうことを想定しています。